

福井県立奥越特別支援学校 交流及び共同学習通信

第12号

福井県立奥越特別支援学校

〒911-0802
福井県勝山市昭和町3丁目1番69号
TEL 0779-88-0050 FAX 0779-88-0511
URL <https://www.okuetsu-sh.ed.jp/>

あしあと

題字：小学部 6年 水上 莉緒

再開の喜び 再会の願い



奥越特別支援学校
校長 大崎 忠久

「あれ、今日は〇〇さんお休み？」、「△△小学校で交流ですよ」「明日、□□中学校の生徒が交流で来校します」数年振りに耳にした言葉です。得体の知れないウイルスに怯え、一切の対外行事を取り止めた一昨年度。対面は無理でもオンラインや手紙、作品交換等の間接的な交流を模索し、共に育ってきた地域の友達との絆を繋いだ昨年度。そして今年度、オンラインでの交流に加え、感染症対策を講じた中で対面での交流及び共同学習が実施できました。保護者ならびに関係小中学校のご理解とご協力に感謝申し上げます。廊下に掲示されている写真には、学校とはまた別の子ども達

の真剣な眼差しと笑顔が見られます。

また地域交流活動も続いています。特に今年度は、中・高等部の作業製品販売会を、学校祭や保護者懇談の日等に保護者や地域の方を招いて実施し、九月には勝山市の地域行事に高等部生徒が参加してきました。販売会を通して多くの方と関わる中で、生徒の笑顔や商品を説明する声が弾みます。「また遊ぼうね」「また来るよ」

子ども達が地域の一員として、共に学び育つ共生社会推進に向けて歩み続けるとともに「また」の思いが繋がることを願っています。



また会いたいな



小学部一年生のMさんは、富田小学校の一年生と交流をしました。一回目の交流では図工、二回目の交流では音楽に参加しました。同じ保育園を卒園した友達から「僕のこと覚えてる？」と声を掛けられると、「うん」と笑顔で頷いて応えるなど、友達とのやりとりを楽しんでいました。音楽では、奥越特別支援学校

小学部 居住地校交流



の音楽の授業でやった「おちたおちた」の手遊びを紹介し、みんな楽しんでみました。また、カステタネットやトライアングルなどの楽器と一緒に鳴らしたり、じゃんけんゲームをしたりして交流を深めました。交流後の振り返りでは、「楽しかった？」「また行きたいね」などの声掛けに笑顔で応え、何度も写真を見返していました。

(伊東)

小学部 居住地校交流

やっと会えたね！



小学部三年生のMさんは、居住地校の上庄小学校との交流を行いました。コロナ禍で入学したため、二年間は手紙をやりとりする間接交流でしたが、今年は初めて直接交流ができました。



ことのある「ばくだんゲーム」を一緒に行いました。どちらの交流も大変盛り上がり、上庄小のみんなから「また来てほしい」「今度は上庄小の三年生がMさんのことを考えた交流会を企画したい」という素敵な提案もいただき、もう一度交流に行く予定です。直接交流だからこそ生まれた子ども同士のやりとりや学びがたくさん見られ、交流の良さを改めて感じる事ができました。

(坪田)

中学部 居住地校交流

陽明中学校 特別支援学級 生徒との交流



中学部二年生のWさん、三年生のMさんとYさんの三名が、陽明中学校の特別支援学級の生徒と直接交流をしました。

一回目は、本校に陽明

中学生が来校し、チーム

に分かれてビンゴゲーム

をしました。ビンゴカード

をどう作るかをチーム

で相談したり、本校生徒

がカードを見やすいよう

に陽明中学生が提示した

りする姿が見られました。

二回目は陽明中学校を訪問し、陽明中学生が考えたジェスチャーゲームやシルエットクイズを楽しみました。一度会っていただくこともあり、自然に関わることができました。本校生徒からは「また交流したい」、陽明中学生からは「新しい友達ができたら」などの声が聞かれました。

(廣瀬)



居住地校交流 総括



今年度は、小学部児童十名、中学部生徒九名が居住地校交流を行いました。手紙の交換やオンライン交流などの間接交流に加えて、直接相手校に出向いたり、相手校の生徒が本校に来校したりする直接交流も実施しました。

直接交流では、久しぶりに居住地校の友達と実際に顔を合わせることができ、「久しぶり！」と声を掛け合ったり、ゲームなどを行う際にグループやペアで協力したりなど子どもたち同士が関わる姿が多く見られました。オンライン交流では、画面越しに友達の顔を見ながら、自己紹介や学校紹介をして、楽しそうに交流する様子が見られました。間接交流だけでは、相手の児童と交流学習をしているという実感がもちにくいという難しさがありましたが、直接友達と会って活動を共にすることで、相手をしっかりと感じる事ができ、交流学習を楽しみに待つ様子も見られました。

(前田・黒木)



一、二学期の終わりに、作業製品販売会を実施しました。保護者の方だけでなく、今年度は学校近隣の昭和町地域の方も対象として実施しました。約二年ぶりとなる地域の方を招いての販売会で、たくさんの方が来校して下さい、生徒からは働く喜びを感じる事ができました。

作業学習を通して

中学部 地域交流

三学期、作業学習の染め物班は大野市の老人施設の方とオンラインで交流しました。お互いの活動を紹介し、製作した染物の商品と施設の方が流しました。また園芸班は、勝山で花屋さんをされている方を講師としてお招きし、フラワーアレンジメント教室を開催しました。ドライフラワーを使ったフレーム飾り作りを教えていただきました。
(木村)



十月二十一日(金)五時間目に勝山北部中学校一年生十六名とオンラインで学校間交流を行いました。北部中学校との学校間交流はコロナ禍で中止になった令和二年度を除き今年で六年目。今年度は自己紹介と、それぞれの学校活動をグループごとに紹介し、同じ地域に暮らす仲間の学校生活の様子を知る機会となりました。テレビに映る北部中学校の様子をじっと見つめる本校の生徒たち。当初はお互いに緊張気味でしたが、



勝山北部中学校と六年目の学校間交流

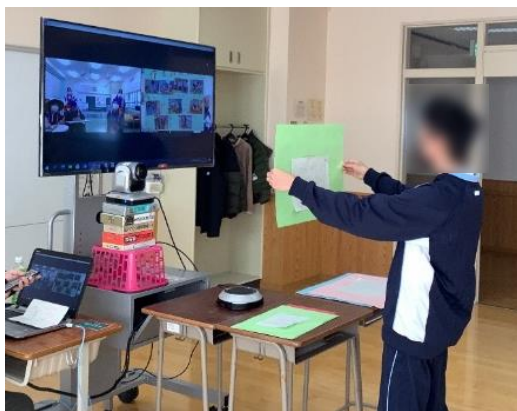
中学部 学校間交流

徐々に笑い声も上がり、最後はお互いが立ち上がり、手を振る姿が見られました。後日北部中学校から手作りの学校紹介が送られてきました。廊下に掲示されると早速駆け寄って「こんな部活あるんやね」と言い合う姿が見られました。北部中学校でも本校教員の障害理解の事前授業を受けて「不自由≠不幸」という気付きがあったこと、そして「わたしたちと変わらない」「奥越特別支援学校の友達」という気持ちで学校間交流に臨みたいと感想を伝えてくれました。同じ地域に住む仲間としてふれあう貴重な機会となりました。
(油谷)



雪国と南国の交流

高等部 学校間交流



高等部一年生は、沖縄県立泡瀬特別支援学校とオンラインで学校間交流を行いました。本校は、学校の紹介をしました。泡瀬特別支援学校は、沖縄の伝統民族衣装を着てエイサーを披露しました。初めて見るエイサーに生徒からは「おっすごい！」と声が上がっていました。

質問コーナーでは「沖縄は雪が降りますか？」や「マンガーは美味しいですか？」など事前に行った沖縄調べの内容を思い出し、いくつも質問をしていました。また、方言クイズで盛り上がる場面もありました。初めて聞く方言に生徒たちは、とても驚いている様子でした。交流後は「次は雪を見せたい」「恐竜博物館の写真も見せたい」と三期の交流を楽しみにする様子が見られました。(宮川)



「越前カンタケ栽培」体験学習

高等部 地域交流

十二月十二日(月)の作業学習の時間に、奥越農林総合事務所の和多田様と生田様を講師にお招きして、「越前カンタケ栽培」の体験学習を開催しました。高等部一年生五名、二年生四名、三年生二名の合計十一名が参加しました。



最初にキノコの種類や育つ環境などについての説明を受け、その後プランターにカンタケ菌床を埋め込む作業を手順の説明を受けながら行いました。また、育てたり収穫したりする際の注意点の説明を受け、最後に日の当たらない場所での栽培することや今後の水やりの方法を教えていただきました。生徒達からは、「おいしいカンタケができるように、がんばって育てていきたい」などの感想を聞くことができました。(木戸口)